

明中瓦版

令和7年年末号

小中一貫校 彩和学園

富田林市立明治池中学校

校長 堤 周作



未来科「探究」発表会

11月生徒集会で「今なぜ、未来科『探究』なのか」。①36年前に明中が開校した頃、バブル経済と言って日本が世界で一番景気がよく、電気製品や自動車は日本製が世界を席巻し、ニューヨークの超高層ビルを日本企業が買い、働く人の給料は毎年どんどん上がった。その後バブルが崩壊し、電気製品や半導体、スマートフォン、AI等、様々な分野でアメリカ、中国、韓国、台湾等がぐんぐんと強くなり、急激に少子高齢化に向かう日本の企業は停滞した。②昔は、大量生産で決められた「同じ仕事」を「間違えなく」「長時間」働くとそれで良く、日本人は真面目で勤勉で、学校は一齊に知識を詰め込む授業を行い、それがフィットした。しかし今後数十年後みんなが30,40歳の頃は、ロボットやAIが自動でできる仕事はますます減るだろう。残るのはAIやロボットでは対応できない「特別な知識」「高度な判断」「協調性」「創造性」が必要な仕事や、人との関わりの中で判断する仕事等。そこで日本は、昔のただ一齊に知識を詰め込むだけの教育ではなく、生徒自身で課題を見つけ切り拓く「探究学習」に力を入れ始め、彩和学園では「未来科」として先進的に取り組んでいる。

11/19(木)彩和学園「未来科」探究発表会

(↑写真上から1,2,3年の発表)

たくさんの先生が探究の指導法を研修に来られました。5時間目が小学校、6時間目に中学校。生徒の発表テーマは自身が興味を持ったもので一部紹介しますと、1年「コリアタウンはなぜあるのか」「日本と韓国の文化や食べ物、礼儀、コスメ、アイドル、スポーツ等の違い」「豊かな国と貧しい国の特徴の違いから所得の差ができる原因をみつける」2年「なぜ食べ物の賞味期限・消費期限を延ばせないのか」「どうしたら先生の長時間労働や業務負担からくる教員不足を解決できるのか」「継承する人が減っている農家を続けていくには」「どうしたらオーバーツーリズムを解決できるか」「女性のトラックドライバーがなぜ増えてきているのか」3年「身長を伸ばすために」「人生の楽しみ方」「なぜ戦争はなくならないか」「天気予報はなぜ予想できるのか」「人の行動原理は」「AIと人間の共存」「睡眠について～夢はなぜ見るのか～」「効率よく勉強するためには」「魅力的な日本の物語の世界」「数学が美しいわけ」等…。参観者から、絶賛して頂きました!

12/12(金)1年国際探究学習:四天王寺大学訪問

(大学生に発表する1年生→)

研究発表指導助言者の原田准教授にお世話を頂き、四天王寺大学に訪問。教員採用試験に合格している4回生2人から卒論の発表。絵本を手掛かりに「身近な人々と関わりながら成長を遂げていくということ」「心の中に潜んでいる世界を描き出す」。グループに分かれて1年生の探究発表に大学生がアドバイス。昼食は学生と一緒に食堂で安くて大ボリューム(→)。最後に大学探検として様々な素晴らしい設備を案内して頂き、来年の38期生探究が楽しみ!】

1/21(金)市長激励訪問

吉村善美市長が来校されて、3年生全員に合格祈願の「マンホールカード」を一人ひとりに贈呈して頂きました!マンホールは形状が「まる」、傾けても中に「落ちない」、模様や凹凸の滑り止めがあって「滑らない」。冬休み、あと一息、頑張れサブローたち!

